令和6年度一宮市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会議事録

日 時：令和6年11月8日（金）14時～14時25分

場 所：一宮市役所11階1103会議室

出席者：委員10名

事務局7名

1. 開会

- ・福祉部障害福祉課長開会宣言、あいさつ、欠席者確認
- ・委員の互選により、専門分科会長を選出。
- ・分科会長の指名により、副専門分科会長を選出。

2. 議事

(1) 審査部会について

- ・審査部会会長より報告。

一宮市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会審査部会は、社会福祉審議会運営規程第8条に基づき設置されている。奇数月の第3火曜日に10名の委員で開催。手帳の等級、医師・医療機関（薬局含む）の指定について審議している。

令和5年度に実施した、指定医向け診断書・意見書スキルアップ事業において、診断書・意見書作成時の問題点を洗い出し、障害認定に関する理解を深めるための文書を作成した。

今年度は、指定医向けスキルアップフォローアップ事業として、それを引き継ぎ、製本したものを対象の指定医に配布する。その後、診断書・意見書の作成の精度について効果測定を予定している。

また、一宮市の「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく自立支援医療機関の指定に関する基準」の新規開局する保険薬局について、要件を緩和する改定について審議した。

- ・質疑
特になし

(2) 一宮市障害者基本計画等について

- ・事務局より報告。

令和6年3月に令和6年度から始まる第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画を策定した。令和3年度から6カ年の計画である第3次障害者基本計画については、中間見直しを行った。

障害者基本計画の施策の取り組み内容、令和 5 年度の各種サービス量について補足をまじえ、令和 6 年 4 月から 8 月の実績をもとに、見込み量と令和 5 年度実績と比較しながら傾向を説明。

・ 質疑、意見

会 長>障害者理解啓発講演会のテーマについて、障害のある方の家族というと従来は親御さんが多く、親亡き後の話がよく聞かれる。最近は、親亡き後を、「なき」と平仮名で表現することがある。親御さんがいる間に、親だけでなく、子、パートナー、きょうだいの子のことを話題にする。

委 員>18 ページ。地域移行支援の実績が 0 人である。病院からの退院した方が 0 人ということか。

事務局>精神科病院から退院した数の実績ではない。地域移行支援というサービスを利用し、退院支援を受けた方の実績となる。精神科病院から地域の相談支援事業所に患者さんの退院に向けての相談が入り、自宅に戻るのか、グループホームに入るのか、個々人のニーズや状況に応じた支援は行われている。

会 長>精神科病院からグループホーム、グループホームからさらに一人暮らしと、広い意味での地域移行支援である。障害者総合支援法が改正となり、意思決定支援がかなり言われている。例えば、施設入所支援に入所している重度の方に対しても必ずアセスメントを行い、グループホームはどうか、また現にグループホームに入居している方の場合だと、一人暮らしはどうかなど、事業所がアセスメントをしていかなければならない。重度だからコミュニケーションが難しいというだけでは拒否の理由にはならず、減算対象になると言われている。今後、地域移行支援はますますクローズアップされると感じている。

また、就労選択支援のサービスも新設される。障害者自立支援協議会の役割も意義深くなる。一宮市全体で就労支援をどうしていくか問われていく。

3. その他

・ 令和 7 年度については計画の策定年度であり、専門分科会は年 2 回の開催を予定している旨事務局より説明。

・ 閉会